

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究

研究分担者 恵谷 ゆり 大阪母子医療センター 消化器・内分泌科主任部長

研究要旨

B 型肝炎ワクチン定期接種開始後の B 型肝炎ウイルス感染およびワクチン効果の実態を明らかにするために、昨年に引き続き、当センター臨床検査部に保存されている残血清を廃棄前に回収して HBs 抗体価および HBc 抗体価を測定し、解析を行った。

共同研究者

森岡一朗、岡橋彩（日本大学医学部附属板橋病院小児科・新生児科）

須磨崎亮（茨城県立こども病院小児科）

酒井愛子（国立国際医療センター）

田中敏博（静岡厚生病院）

A. 研究目的

B 型肝炎ワクチン定期接種開始後の B 型肝炎ウイルス感染およびワクチン効果の実態を明らかにする。

体陽性例は 0 であったが、2023 年 2 月の 146 検体中 2 例で HBc 抗体が陽性となっていた。いずれも乳児例であり、母体からの移行抗体の可能性も考慮する必要があると思われた。HBs 抗体価の分布を表に示す。

B. 研究方法

大阪母子医療センター臨床検査部において検査を行ったあとの残血清を廃棄前に回収した。輸血やグロブリン投与の可能性のある血液疾患、循環器疾患症例を除外した小児の検体の HBs 抗体価および HBc 抗体価を測定した。1 歳未満の乳児例については HB ワクチンを 3 回接種したことがカルテ上確認できた症例の検体を測定した。

（倫理面への配慮）

本研究については研究代表者の森岡一朗により日本大学医学部附属板橋病院において中央一括審査による倫理審査を受け、その後大阪母子医療センター倫理委員会でも承認を受けた。

C. 研究結果

2022 年 2 月に 245 検体、2023 年 2 月に 146 検体、同年 3 月に 121 検体を株式会社 LSI メディエンスに送付し、HBs 抗体価および HBc 抗体価の測定を依頼した。最後の 121 検体の測定結果は未報告である。

2022 年 2 月の 245 検体において HBc 抗

HBs 抗体 (mIU/mL)	2022 年 2 月分	2023 年 2 月分
<0.1	61	0
10 未満	32	26
10～	43	34
100～	63	54
1000～	46	32
合計	245	146

D. 考察

昨年から検体の回収を開始し、合計 512 検体の解析を行った。他施設のデータと併せて B 型肝炎ワクチン定期接種開始後に小児における B 型肝炎ウイルス感染およびワクチン効果の実態を明らかにできるものと考えられる。

E. 健康危険情報

なし